

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年3月14日】第117号



## 春の栽培計画

3月7日(月)に、「農大稲花小の畑」で何を栽培するか、相談が行われました。「農大稲花小の畑」とは、本校の近くにお借りしている畑のことです。1年生から3年生までがそれぞれ、野菜などを栽培し、収穫してきました。4月から、トマト、ナス、エダマメなどを栽培するとともに、学習を助けるヒマワリやトウモロコシも育てることになりました。

「田奈のたんぼ」は、横浜市青葉区で農大稲花小の子どもたちが利用させていただいている水田です。こちらで、田植え、たんぼの生き物観察、そして稲刈りと、子どもたちの学びの場になります。さらに、本校校舎の各階にあるベランダやテラスでも野菜や草花の栽培がおこなわれる予定です。

いろいろな方々に教えていただきながらの栽培ですが、徐々に教員も栽培を学び、子どもたちに十分な指導ができるようになることを期待しています。本校で冒険心をもって学ぶのは、子どもたちだけではありません。

## 顕微鏡観察

3月8日(火)は3年生に、11日(金)は2年生に、それぞれの稲花タイムで実体顕微鏡を使った学習を行いました。実体顕微鏡の倍率は20倍とそれほど高くはありませんが、スライドガラスとカバーガラスに挟んでプレパラートを作る必要がないなど操作性にすぐれており、小学生の学習にはぴったりなのです。緊張しながら恐る恐る使うよりも、のびのびと使ってミクロの世界を楽しむことの方が大切です。

3年生は「表面を見る」をテーマに、牛革、シチメンチョウの羽、マダイの鱗などを観察し、1年生は「つぶつぶをみる」をテーマに、ヒマラヤスギの雄花などで使い方に慣れた後、砂場の砂、石英の輝きが美しい伊豆七島からの砂、そして春が来たことを知らせるアブラムシを観察しました。

びっくりすること、もっと見たいと思うことを大切に準備してみた材料でしたが、ちょっと忙しい授業になってしまいました。次は、休み時間などにも自由に顕微鏡が使えるコーナーを作りたいと考えています。

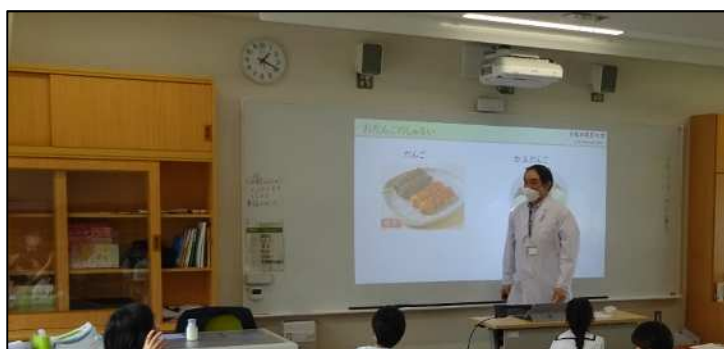
## 食品加工実習

新型コロナウイルス感染防止のために、食品を扱った授業ができずに残念に思っていました。しかし、東京農業大学食品加工センターの野口智弘教授からのご提案をいただき、学校での座学と家庭での実習を組み合わせたスタイルで行うことになり、ご指導をいただきました。

3年生は豆腐作りです。4月以来、「マメって？」の授業、畑でのエダマメ栽培、国語ではダイズを使った説明文、と続けてきた授業の仕上げにふさわしいトピックスです。豆乳がにがりでごまかす様子で固まる様子を体験した授業で、子どもたちの気持ちは早くも実際の豆腐作りへ。春休みまでに、豆腐を作る容器、にがりなどを家庭に持ち帰ります。

2年生は米粉を使ったみたらし団子づくりです。野口先生のやさしい語り口に、子どもたちはすっかり惹きつけられ、三色団子とみたらし団子とどちらがいいかな？と想像力を広げていました。2年生にとっても、1年生のときから続けてきたイネ、お米の学習のよい仕上げになりそうです。子どもたちが米粉やレシピを家庭に持ち帰りますので、おいしいお団子を作ってみてください。なお、米粉は東京農業大学の校友(卒業生)が活躍する日の本穀粉株式会社から寄贈していただきました。一口に米粉といっても、使う目的に合わせて最適化し、粒の大きさや、加水時の様子が異なる製品を作っているそうです。

春休みにどんな豆腐やお団子ができたか、子どもたちからのレポートが楽しみです。



\*日の本穀粉株式会社：<https://hi-kokufun.com/>

### 保護者会(オンライン)と面談

3月11日(金)、2年2組の保護者会(オンライン)が行われました。新型コロナウイルス感染の関係で、この学級だけが最後になってしまいましたが、保護者の皆様にご理解をいただいて1週間遅れでの開催となりました。教員と保護者、また保護者同士も久しぶりに(画面上ではありますが)顔を見ながらの懇談となりました。

なお、本校では保護者からの申し出による担任との面談を随時行っています。学校から保護者にお声がけしての面談をおこなう場合もあります。心配事があればいつでも担任やスクールカウンセラーとの面談で、よい解決法を探したいと願っています。一方、問題があるときだけでなく、子どもたちのよいところや、がんばっているところを保護者と教員とで共有する機会も大切だと考えます。なかなか対面できない状況が続きますが、短時間の面談、学校へのメール、あるいは子どもを通しての一言など、様々な方法でつながりを保っていききたいものです。

校長 夏秋 啓子